

澤村 今期は「攻める年」

3 拠点の活用などで

繊維専門商社、澤村（大阪市中央区）の清水民生社長は今期（2016年9月期）を「攻めていくべき年」とし、祖業であるテキスタイル事業と製品事業の融合や、拠点を構える北陸・タイ・中国を臨機応変に活用したモノ作りを進めるとともに「社長塾」と題した講座などを通じて人材育成にも力を注ぐ。

清水社長は今期の市場環境を「これまでも増して不透明」と分析。一方で、ここ数年の間にグループ化、チーム化を趣旨とした組織体制の変更、不採算事業からの撤退、タイ・北陸への拠点設置など、「着々と手は打ってきた」として、今期を「攻めていくべき年」と表現する。

同社の祖業であるテキスタイルの企画販売を軸に顧客提案を強め、その派生としての製品事業も合わせて拡大していく。生産の面でも2年半前に設立したタイの現地法人、今年5月に設立した北陸支店、上海の現地法人を顧客の要望に応じて臨機応変に活用しながら、「積極的に打って出ていく」考えだ。

同時に今期力を入れるのが人材育成。同社は3年前から、菅原貞光顧問による全社員を対象にしたスキルアップ講座「菅原塾」を定期的を実施し、社員全体の知識習得、意識向上を図ってきた。昨年からは新たに清水社長による「社長塾」をスタート。こちらは新入社員を対象に、社会人として、商社マンとしての基本的な心構えなどを、実戦経験を基に説くもので、月に一回のペースで開催している。

そのほか、社内に講師を招く形で語学研修を実施するなど、広範な人材育成に取り組んでおり、今期も「商社は人」という考えのもと、継続強化していく。

今期は事業全体の底上げを図り、売上高100億円、経常利益2億円を狙う。